

JSCTS メールマガジン

2022年11月30日発行 第156号

◆ 日本CT検診学会 夏期セミナー2022を終えて	1
鈴木健氏	
◆ 第30回日本CT検診学会 学術集会 一般演題登録・参加登録のお願い	2
満崎克彦	
◆ 第31回日本CT検診学会 学術集会 準備報告	3
横地 隆	
◆ 第32回日本CT検診学会 学術集会大会長挨拶	3
青木隆敏	
◆ カンファレンス紹介	4
国立がん研究センター東病院 胸部X線読影会	
◆ スタッフ、その他募集	4
◆ 編集後記	5

日本CT検診学会 夏期セミナー 2022 を終えて

日本CT検診学会 夏期セミナー2022 代表世話人

トヨタ自動車株式会社 安全健康推進部

鈴木健氏



日本CT検診学会 夏期セミナー2022として、第25回読影セミナー、第3回COPDセミナー、第15回技術セミナー、第4回大腸CTセミナー、第2回CADセミナーを2022年7月23日(土)東京都千代田区一ツ橋にあります一橋講堂にて、執り行うことができました。コロナ禍の第6波と7波の間ではありましたが、感染者数も読みづらい状況下でしたので、ハイブリッド方式で開催させていただきました。

まず、第25回読影セミナーでは、聖路加国際病院 松迫 正樹 先生の世話人・座長のもと、2つの講演を行っていただきました。1つ目は、浅間南麓こもろ医療センター 放射線科 丸山 雄一郎 先生による、「低線量CT肺がん検診画像の読影自己演習のためのeラーニングシステムの紹介と非腫瘍性病変の判定とfollow up」と題して、当学会が構築しているeラーニングシステムについてご発表いただきました。もう1演題は、がん研究会有明病院 画像診断部 負門 克典 先生による、「肺がん鑑別を要する病変の画像診断～CT検診で見つかる精査不要な肺がん候補、非がん病変～」と題して、日ごろの読影時に気を付ける点を分かりやすくご紹介いただきました。

次に、第3回COPDセミナーでは、滋賀医科大学 中野 恭幸 先生の世話人・座長のもと、福島県立医科大学 呼吸器内科 柴田 陽光 先生により、「COPDにおける肺癌」についてご講演いただきました。

第15回技術セミナーでは、私が世話人・座長をさせていただき、低線量CT検診を最近立ち上げられたご施設として、愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院 浅井 美咲 先生に「超低線量CT肺がん検診への挑戦～1/100線量を目指して～」と題してご発表いただきました。また、長年CT検診に携わっているご施設として、聖隷三方原病院 鈴木 千晶 先生により「新しい再構成法による低線量肺がん検診への適応」と題して、様々な取り組みを発表していただきました。両施設は、AIを使用した画像再構成方法を取り入れており、今後撮影条件を構築されるご施設の参考になったのではと思います。

第2回CADセミナーでは、藤田医科大学 大野 良治 先生の世話人・座長により、徳島大学 仁木 登 先生によるご講演「胸部疾患のラジオゲノミクスAI検診の開発」について、お話をいただきました。

第4回大腸CTセミナーでは、福島県立医科大学 津医療センター 歌野 健一 先生の世話人・座長により、大腸CT検診の低線量化を2つの視点からご講演を

いただきました。1つ目は、亀田総合病院附属幕張クリニック 診療放射線部 藤原 正則 先生により、技術面からの視点について。2つ目は臨床面からの視点で、長崎県上五島病院 放射線科 安田 貴明 先生にご発表いただきました。

どのご発表も、非常に興味深く、分かりやすくご発表いただき、また、すぐに役に立つ内容ばかりで、非常に充実した内容となりました。会の開催に際しては、世話人・座長、ご発表いただいた先生方をはじめ、学

術委員会の方々、当日運営をいただいたスタッフの方、関係いただいた全ての方へ感謝を申し上げます。コロナ禍ということもあり、現地での参加者は少なかったですが、現地に参加して会場でしか聞けないような意見を交換するのが、夏期セミナーの醍醐味でもあります。来年のセミナーでは、行動制限も今よりは緩くなっていると思われしますので、多くの会員の皆様が現地で参加いただき、活発な意見交換が出来ることを切に願っております。

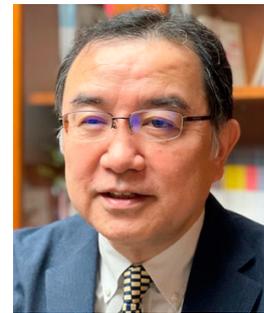
第30回日本CT検診学会 学術集会 一般演題登録・参加登録のお願い

第30回日本CT検診学会学術集会大会長
済生会熊本病院予防医療センター
満崎克彦

この度、2023年2月17日（金）、18日（土）の2日間、熊本市中心部に位置する「熊本城ホール」を会場に、第30回日本検診CT学会学術集会を開催予定です。約3年にわたってコロナ感染が蔓延し、さらに第8波の感染拡大が危惧されている中、このコロナ禍を乗り越えその先へ進むためには、様々な壁を乗り越え挑戦し進化し続ける必要があるという思いから、学術集会のテーマを「Challenge & Evolution～乗り越えて、未来へ～」としました。会場は、駅・空港ともに比較的アクセスも良く、熊本城には徒歩5分という立地です。現地発表のほかオンラインWebを併用した「ハイブリッド方式」での開催を予定し準備を進めております。

今回のプログラムでは「コロナ感染症の現状」、「検診における被曝管理」、「低線量肺がんCT検診の普及とその対策型導入への挑戦」、「大腸がん検診における大腸CTの意義」、「AI画像診断」、「生活習慣病予防に寄与するCT検診」など、様々な興味深いテーマを準備しております。また、第26回日本CT検診学会学術集会（日立市）以来の大腸CTハンズオンセミナーも開催予定です。一般演題も多数募集しておりますので、奮ってご応募ください。

- ・特別講演「コロナ感染症の現状と展望（仮）」
演者：小倉 高志 先生
（神奈川県立循環器呼吸器病センター所長）
- ・特別講演「検診CTにおけるDRLs（仮）」
演者：赤羽 正章 先生（国際医療福祉大学病院）
- ・特別講演「肺がんCT検診認定機構の取組みについて
— 認定医師・認定技師・認定施設 —」
演者：山口 功先生
（森ノ宮医療大学 医療技術学部 診療放射線科）



- ・シンポジウム1
「低線量CT検診普及のために必要な環境整備」
- ・シンポジウム2
「大腸CT検査は検診に何をもちたらすか（仮）」
- ・シンポジウム3
「対策型検診導入への課題解決—低線量CT肺がん検診の新規ガイドラインを踏まえて（仮）」
- ・シンポジウム4
「CT検診で生活習慣病を予防する（仮）」
- ・シンポジウム5
「AIを用いた撮影技術および胸部画像診断（仮）」
- ・大腸CTハンズオンセミナー
第8波の到来が危惧されまだまだ大変な時期が続きますが、皆様のますますのご繁栄とご健勝を心よりお祈りしております。来年2月、熊本地震からの復興が進む「火の国くまもと」でお会いできることを楽しみにしております。

第30回日本CT検診学会 学術集会大会ホームページ
<https://www.c-linkage.co.jp/jscts30/index.html>

第31回日本CT検診学会 学術集会 準備報告

第31回日本CT検診学会学術集会大会長
ミッドタウンクリニック名駅
横地 隆



2024年3月1日（金）・2日（土）の2日間、愛知県産業労働センター（ウインクあいち）で第31回学術集会を開催すべく、着々と準備を進めております。

テーマは『温故知新（過去から学んで未来を見据える）—The Long and Winding Road—』で、まさしくこの30周年の歩みを諸先輩からのお言葉とともに振り返りつつ、将来に向けての指針を示せるような大会にしたいと考えております。

今のところは「現地＋WEB」のハイブリッド開催を予定しております。まだまだCOVID-19の影響が長引

いており、以前のような日常にはほど遠い状況ではありますが、その頃には落ち着いた生活が営まれていることを願っております。ぜひ多くの方々に名古屋まで足を運んで頂ければと思います。

第32回日本CT検診学会 学術集会大会長挨拶

第32回日本CT検診学会学術集会大会長
産業医科大学放射線科学講座
青木隆敏



このたび第32回日本CT検診学会学術集会の大会長を拝命致しました、産業医科大学放射線科学講座 青木隆敏と申します。歴史ある本学術集会を主催させて頂くことになり、たいへん光栄に存じます。

2025年に行う予定の本学術集会は北九州市で開催する予定です。新型コロナウイルス感染の影響で、現状の学会は、Web開催や現地とのオンライン配信のハイブリッド形式での開催が主流ですが、2025年には北九州の地で顔を合わせて議論を尽くし、参加者の皆様との歓談が叶いますことを切に願っております。

内容については、本年度の熊本、来年度の名古屋での開催の後ということで、詳細は決まっておりませんが、CT検診の有効性が次第に明らかになり、がん検出のみならず種々の疾患への活用が広がり、さらには画像診断領域のAI技術の導入が進んでいます。CT検

診をいかに進めるかを考える新たな時代に突入した今、CT検診が一人でも多くのがん死亡減少、健康寿命の延伸につながるように、第32回の学術集会で何を考え、議論すべきかを見極めながら企画していきたいと思っております。学会員の皆様方には、何卒ご支援賜りますようお願いいたします。

実り多き学術集会となるよう鋭意準備して参ります。ご参加を心よりお待ちしております。

カンファレンス紹介

どなたでも自由に参加できるカンファレンスを紹介します。
これ以外にもご存じのカンファレンスがありましたらご紹介下さい。

国立がん研究センター東病院 胸部X線読影会

日 時：毎月（8月は休会）第2火曜日 午後7時30分より約2時間

場 所：千葉県柏市柏の葉6-5-1 国立がん研究センター柏キャンパス内
先端医療開発センター（旧臨床開発センター）研究棟3階 セミナールーム1

内 容：（前半）ご出席の先生から提示していただいた症例の読影・解説
（後半）様々なテーマでの症例呈示・講演等

参加費：無料

備 考：詳細につきましてはHPにてご確認ください。

URL： <http://www.ncc.go.jp/jp/nccce/professional/seminar/dokuei.html>

連絡先：04-7133-1111（代）事務局（院内PHS：91172）中島

案内請求：mihonak2@east.ncc.go.jp まで。

スタッフ、その他募集

国立がん研究センター中央病院 肺診断グループ

当グループではチーフレジデント、レジデント、短期レジデント、厚労省計画研修医、対がん協会奨学医、他施設からの任意研修医を募集しております。気管支鏡検査・治療、胸部X線およびCT読影について指導致します。

興味のある方は下記にご連絡下さい。

国立がん研究センター中央病院 呼吸器内視鏡科 土田敬明 ttsuchid@ncc.go.jp

神奈川県立がんセンター 呼吸器グループ（呼吸器内科・呼吸器外科・病理診断科・放射線腫瘍科）

当グループではシニアレジデント、レジデント、他施設からの任意研修医等を募集しております。

当施設では、主に肺癌の診断（画像診断、気管支鏡診断及び病理診断）から治療（手術療法・放射線療法・化学療法・治験～臨床試験）に関して幅広く研修できることが特徴です。「がん薬物療法専門医」のための他科（腫瘍内科・消化器科・乳腺外科等）研修ローテーションも可能です。

興味のある方は下記にご連絡下さい。

神奈川県立がんセンター 呼吸器グループ kokyuki@kcch.jp

呼吸器内科 齋藤春洋

呼吸器外科 伊藤宏之

ホームページ： <http://kcch-tog.umin.jp/index.html>

募集期間：任意研修医は随時、レジデントおよびシニアレジデントは毎年10月に試験を行っております（詳細はホームページをご参照ください）。

編集後記

「第30回日本CT検診学会学術集会」が、社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院 予防医療センター長 満崎克彦大会長のもと2023年2月17日(金)と18日(土)の2日間、熊本県「熊本城ホール」にて開催されます。

この時期のメールマガジンの編集後記では、大会が開かれる場所の歴史や風物・名産などについて書くことが多いのですが、[大会HP第30回日本CT検診学会学術集会 \(c-linkage.co.jp\)](http://c-linkage.co.jp)では、しっかりと観光ガイドのバナーが貼られておりますので、今回はそちらをご覧くださいと熊本の楽しい情報を見ることができます。さすがは県の営業部長兼しあわせ部長を務めるくまモンがいる熊本だと感心しました。

学術集会のテーマは『Challenge & Evolution (挑戦と進化) ～乗り越えて、未来へ～』です。低線量肺がんCT検診を対策型検診として進めること、肺がん以外の疾病やその予防への展開、低線量撮影と高い診断精度を実現させる「人工知能：AI」などの新しい技術に加え、コロナ禍におけるCT検診の適切な運用や社会における役割について活発な討議が行われることと期待しております。

私が九州出身ということもあり、是非とも現地参加したいと考えております。多くの皆様と会場でお会いして、現在の課題を乗り越えた先にある未来についてのお話を交わすことができたらうれしいです。現地発表のほかオンラインWebを併用したハイブリッド方式での開催を予定しておりますので、現地に参集できない方もWeb参加で大会を盛り上げていただけますようお願いいたします。

広報委員長・学術企画委員 草野 涼

JSCTS メールマガジン

2022年11月30日発行 第156号

〒102-0072 千代田区飯田橋3-11-15 6F

(株)クバプロ内

NPO法人 日本CT検診学会

発行責任者：中島留美

編集発行：(株)クバプロ

TEL：03-3238-1689 FAX：03-3238-1837

E-mail：jscts-office@kuba.jp

ホームページ：http://www.jscts.org/
